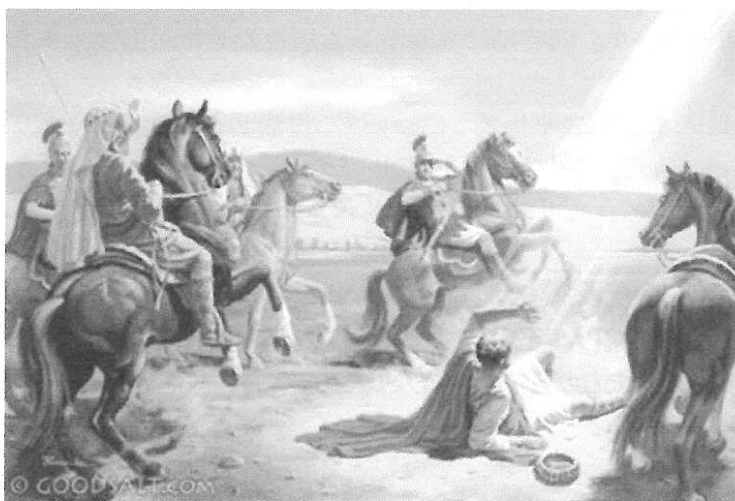


## <名を呼ばれる方>

使徒の働き 26 : 9 ~ 18



「私たちはみな地に倒れましたが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』

【14節】

神は、名を呼んで個人的に語られる方。

キリストと出会って救われた証しは、皆違う。同じものは一つもない。

パウロの証し・・・大舞台 ①エルサレム ②ローマ

騒動の後。神様がパウロのそばに立って語られた。

「勇気を出しなさい。あなたはエルサレムで私のことを証したように、

ローマでも証しをしなければならない。」 使徒 23 : 11

- ・エルサレムの騒動（21、22章）の後、ローマ皇帝に上訴したパウロは、上訴の理由を議会で弁明。 <26章>
- ・船でイタリアへ移動。難破しかけたが何とかローマへ到着 <27章、28章>

以前は、私自身も、ナザレ人イエスの名に強硬に敵対すべきだと考えていました。 【9節】

そして、それをエルサレムで実行しました。祭司長たちから権限を授けられた私は、多くの聖徒たちを牢に入れ、彼らが殺されるときには、それに賛成の票を投じました。 【10節】

また、すべての会堂で、しばしば彼らを罰しては、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを追跡して行きました。 【11節】

このようにして、私は祭司長たちから権限と委任を受けて、ダマスコへ出かけて行きますと【12節】

その途中……

ダマスコ途上で、復活されたキリストと出会い、自分の名前を呼ばれた！

- ・ サウロとイエスキリストは同じ時代を生きた人。
- ・ イエス様はガリラヤ中心で宣教。サウロはタルソでの生活。
- ・ イエス様とサウル。同時期にエルサレム居合わせた可能性はあった？！

◆サウルの耳に入るイエスキリストについて。復活し、影響を残しクリスチャンという、新派が起こっている。この新派を迫害しつつも、心の内は、イエスキリストの存在が、チクチク心に刺さる。キリストの存在が「とげ」であった。

サウロの心の中で一生消えることのない人物・・・「殉教者ステパノ」使徒7章  
また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場において、それに賛成し、  
彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。 使徒22：20

◆パウロがキリストに回心した時、「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と告白し、殉教したステパノの姿がよみがえったのではないか。

パウロに主は語られた

26：16 起き上がって、自分の足で立ちなさい。

22：16 さあ、何故ためらっているのですか、立ちなさい。

◆パウロは確かで正しい人生の方向性を示された。

悔い改めて、向きを変えて踏み出すと、イエス様が望まれていることに、私たちの心は向けられる。なぜなら、イエスキリストとの生きた関係に入れられたから。

わたしにとどまりなさい。わたしもあなたの中にとどまります。

枝がぶどうの木についていなければ枝だけで実を結ぶことはできない。 ヨハネ15：4